

科目名	作業療法概論					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	501教室	
授業概要	本科目を受講することにより、「作業療法とは何か、どのような専門性を有しているか」という問いに答えられるようになることを求める。作業療法をテーマとした動画制作にも取り組む。									
一般目標	作業療法とは何かを平易な言葉で説明する知識を身につける。									
テキスト 参考書等	作業療法学ゴールドマスター・テキスト 作業療法学概論 改訂第2版(メジカルビュー社)									

到達目標										
知識(認知領域) ・作業療法の流れを説明できる。・作業療法の定義を覚え、その意味を説明できる。 ・作業療法の歴史を知り、作業療法の起源を説明できる。・領域別作業療法について、資料をまとめ、他者に分かりやすく説明することができる。										
技術(精神運動領域) ・グループワークにおいて主体的に他者とコミュニケーションを図る。										
態度(情意領域) ・授業に出席し、主体的に授業に参加できる。 ・学生同士で知識を共有しながら取り組む(アクティブラーニング)。										

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	作業療法の定義	作業療法という名称について理解し説明することができる。 法律・協会・連盟が定めた作業療法の定義内容を理解する。	テキストp86～p95を一読しておく。 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。
2	作業療法の歴史 (世界の動向)	作業療法に関わる歴史上の人物とその背景について理解する。	テキストp26～p33を一読しておく。 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。
3	作業療法の歴史 (日本の動向)	日本の作業療法に関わった人物とその背景について理解する。	テキストp34～P75を一読しておく。 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。
4	作業療法のプロセスと意義	作業療法を実施する大まかな過程を理解する。 「作業」について探究する。 作業療法の意義を理解する。	これまでに学習した内容を踏まえて作業療法士の意義について自身の思いを含め考えておく。 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。
5	作業療法周辺の学問、他職種、職業倫理	作業療法に関連する学問の概要を説明できる。 作業療法士養成課程について概要を説明できる。 医療従事者として、作業療法士としての職業倫理を説明できる。	テキストp244～p261を一読しておく。 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。
6	作業療法・OTとは (制作活動を含む)	グループワークを通し目的を理解し目標に向かって円滑に遂行できる。 個人の役割を理解し遂行できる。	グループにおいて各役割を設定する。 グループワーク内容の見直しを行う。
7	作業療法・OTとは (制作活動を含む)	グループワークを通し目的を理解し目標に向かって円滑に遂行できる。 個人の役割を理解し遂行できる。	見直す必要のある課題についてディスカッションする。 グループワーク内容の見直しを行う。
8	作業療法・OTとは (制作活動を含む)	グループワークを通し目的を理解し目標に向かって円滑に遂行できる。 個人の役割を理解し遂行できる。	見直す必要のある課題についてディスカッションする。 グループワーク内容の見直しを行う。
9	作業療法・OTとは (制作活動を含む)	グループワークを通し目的を理解し目標に向かって円滑に遂行できる。 個人の役割を理解し遂行できる。	見直す必要のある課題についてディスカッションする。 グループワーク内容の見直しを行う。
10	学科教員による作業療法経験の紹介	作業療法学科教員の臨床経験、作業療法士観、職業観に触れ、自らが感じた事をまとめて説明する事が出来る。	担当教員について質問をいくつか考えておく。 紹介より得られた情報から作業療法士感について内省する。
11	学科教員による作業療法経験の紹介	作業療法学科教員の臨床経験、作業療法士観、職業観に触れ、自らが感じた事をまとめて説明する事が出来る。	担当教員について質問をいくつか考えておく。 紹介より得られた情報から作業療法士感について内省する。
12	学科教員による作業療法経験の紹介	作業療法学科教員の臨床経験、作業療法士観、職業観に触れ、自らが感じた事をまとめて説明する事が出来る。	担当教員について質問をいくつか考えておく。 紹介より得られた情報から作業療法士感について内省する。
13	学科教員による作業療法経験の紹介	作業療法学科教員の臨床経験、作業療法士観、職業観に触れ、自らが感じた事をまとめて説明する事が出来る。(介護老人保健施設と宇部市の一体的事業について)	担当教員について質問をいくつか考えておく。 紹介より得られた情報から感想文を記載する。
14	学科教員による作業療法経験の紹介	作業療法学科教員の臨床経験、作業療法士観、職業観に触れ、自らが感じた事をまとめて説明する事が出来る。	担当教員について質問をいくつか考えておく。 紹介より得られた情報から作業療法士感について内省する。
15	理学療法概論(理学療法学科教員)	理学療法の概要を説明できる。	理学療法について調べておく。(参考元は問わない) 理学療法の概要について説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			90	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度			○	評価なし	可(1):60点以上
発表・作品		○		10	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		作業療法士として身体障害分野の病院で実務経験がある。		

科目名	作業学					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	501教室	
授業概要	作業療法の「作業」とは何かを考えたことがあるだろうか。それは多種多様な視点から定義づけられている。講義後には自分なりの作業の定義を言えるようになることを求める。 作業療法には3つの大理論があり、それは作業療法士の視点を明確にするものである。多職種にはない作業療法士の特異性を理解することを求める。									
一般目標	作業療法の基礎学問である作業科学を学ぶことで「作業」に含まれる特性を理解する。 作業療法理論を知り、作業療法士として対象者に介入する際の視点を理解する。									
テキスト 参考書等	参考書:作業学第3版 作業療法学ゴールドマスターテキスト(メジカルビュー社) 「作業」って何だろう 作業科学入門 第2版 医歯薬出版									

到達目標			
知識(認知領域) ① 自身の生活がどのような作業で構成されているかを列挙する。 ② ①で挙げた作業にどのような形態・機能・意味があるかを列挙する。 ③ 作業的公正、不公正の概念を説明する。 ④ 作業の視点で自身や他者を理解することができる。 ⑤ 作業を治療として用いる際に必要な作業分析の仕方を理解する。 ⑥ 作業療法の代表的な3理論の構成要素を説明できる。			
技術(精神運動領域) なし			
態度(情意領域) 授業に参加できる。各回の課題に対して真摯に取り組む、適切な質、量の成果物を提出できる。			
回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	作業の定義、分類、効果、作業的存在	作業の定義、分類、効果、作業的存在の概念を説明できる。 作業の視点で「ひと」や「社会」を見ることができる。	作業療法関連資料を参考に作業の定義を予習する(30分)。 作業の分類と作業的存在の概念を復習する(30分)。
2	作業の定義、分類、効果、作業的存在	作業の定義、分類、効果、作業的存在の概念を説明できる。 作業の視点で「ひと」や「社会」を見ることができる。	ひとや社会を作業の視点で見ると予習をする(30分)。 講義で触れた作業の定義を自分なりにまとめる(30分)。
3	作業の意義	作業の意義について説明できる	作業が持つ意義についてテキストを読み込む(30分)。 作業の意義について自身の考えを整理する(30分)。
4	作業バランス	作業バランス自己診断を用い、自身の生活を構成する作業を列挙できる。	作業バランス自己診断の項目を確認する(30分)。 自身の生活を構成する作業をリスト化する(30分)。
5	作業バランス	作業バランス自己診断を用い、自身の生活を構成する作業を列挙できる。	作業の形態・機能・意味の基礎を予習する(30分)。 自己診断結果から作業バランスを振り返る(30分)。
6	人-作業-環境モデル(PEOモデル)	人-作業-環境モデル(PEOモデル)を学び、その概念を説明できる。	PEOモデルの基本概念をテキストで予習する(30分)。 PEOの各要素と関係性を図解して復習する(30分)。
7	作業と結びつきのカナダモデル(CMOP-E、クライアント中心の作業療法)	作業と結びつきのカナダモデル(CMOP-E、クライアント中心の作業療法)を学び、その概念を説明できる。	カナダモデルの概要をテキストで予習する(30分)。 クライアント中心の作業療法の概念を復習する(30分)。
8	人間作業モデル(MOHO)	人間作業モデル(MOHO)を学び、その概念を説明できる。 意志、習慣、環境の概念と関係性を説明できる。	MOHOの意志・習慣・環境の項を予習する(30分)。 意志・習慣・環境の相互関係を復習する(30分)。
9	作業を基盤とした実践・作業療法介入プロセスモデル(OTIPM)	作業療法介入プロセスモデル(OTIPM)を学び、その概要を説明できる。	OTIPMの介入プロセスの概要を予習する(30分)。 作業を基盤とした実践の重要性を復習する(30分)。
10	作業的公正・不公正	自身が現在担っている役割を列挙する。 作業的公正・不公正の概念を知り、自身の例を考えて列挙できる。	作業的公正・不公正の用語の意味を予習する(30分)。 自身の生活における役割と公正さを復習する(30分)。
11	作業の視点で対象者と関わる	まちなか保健室アロマセラピーに参加し、参加者と交流を図ると共に対象者を作業の視点から捉えることができる	まちなか保健室の活動内容を予習する(30分)。 参加者との交流から得た作業の視点を復習する(30分)。
12	作業の視点で対象者と関わる	まちなか保健室アロマセラピーに参加し、参加者と交流を図ると共に対象者を作業の視点から捉えることができる	交流場面での対象者理解の方法を予習する(30分)。 対象者を作業の視点で捉える視点を復習する(30分)。
13	作業の形態・機能・意味	作業の形態・機能・意味の概念を理解し、説明できる。	作業の三要素の定義をテキストで予習する(30分)。 形態・機能・意味の各概念を事例で復習する(30分)。
14	作業の視点で対象者と関わる対象者と関わり、地域の伝統行事に参加する	地域で実施するしめ飾りづくりに参加し、参加者との交流を図ると共にその作業分析ができる。	地域の伝統行事の活動内容を予習する(30分)。 参加者との交流から得た作業の視点を復習する(30分)。
15	講義のまとめ	前後期を通じて本科目で習得した概念を説明できる。	各回の重要語句と作業療法の理論を予習する(30分)。 全範囲の総復習を行い、定期試験に備える(30分)。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品	○	○	○	30	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員			実務経験紹介	日本作業科学研究会副会長として作業科学の発展普及に貢献	

科目名	作業学実習					単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 1年	学期	後期	教員実務経験		有	使用教室	501教室、木工金属陶工室
授業概要	作業療法は治療手段として様々な「作業」を用いる。その作業をすることがどのような治療的効果があるのかを体験的に理解することを目的とするが、根本的に、「作業」に取り組むことの楽しさや難しさを感じてもらいたい。									
一般目標	「作業」を実際に経験することで、楽しさ・難しさを体感し、各作業にどのような特性があるのか分析できるようになる。									
テキスト 参考書等	※適宜資料配布 参考書:標準作業療法学 専門分野「基礎作業学 第4版」(医学書院)、ゴールドマスタートテキスト作業療法学 作業学 第3版(MEDICAL VIEW)									

到達目標			
知識(認知領域) ・各作業がどのような工程で行われるかを列挙することができる ・各作業で使われる材料や道具を扱うための機能を列挙することができる ・各工程でどのような治療的意義があるかを列挙することができる			
技術(精神運動領域) ・各作業を行うために必要な道具・材料を適切に扱うことができる ・校内展示に耐えうる、また実用的に使用できる作品を完成することができる ・集団作業に必要なコミュニケーション能力を身につけることができる			
態度(情意領域) ・授業に参加できる ・作業に集中することができる ・必要に応じ、他者(教員含む)と連携することができる			
回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	オリエンテーション・作業学総論	講義概要を理解できる。包括的作業分析の概要を理解できる。	作業療法の定義を予習する。(30分) 包括的作業分析の概念と構成要素を復習する。(30分)
2	作業学実習① 革細工	革細工演習を通して作業をする楽しさ、難しさを体感する。道具、材料を適切に扱うことができる。革の特性を理解し、イメージした形に形成することができる。	テキストで革細工の工程と道具を予習する。(30分) 使用した道具の名称と適切な扱いを復習する。(30分)
3	作業学実習② 革細工	革細工演習を通して作業をする楽しさ、難しさを体感する。道具、材料を適切に扱うことができる。革の特性を理解し、イメージした形に形成することができる。革細工の包括的作業分析を記録用紙に従って行うことができる。	革の特性と加工時の留意点について予習する。(30分) 自身の作品制作における難所を振り返る。(30分)
4	作業学実習③ 革細工	革細工演習を通して作業をする楽しさ、難しさを体感する。道具、材料を適切に扱うことができる。革の特性を理解し、イメージした形に形成することができる。革細工の包括的作業分析を記録用紙に従って行うことができる。	作業工程における解剖・運動学要素を予習する。(30分) 革細工の治療的意義について分析し復習する。(30分)
5	作業学実習④ 革細工	革細工演習を通して作業をする楽しさ、難しさを体感する。道具、材料を適切に扱うことができる。革の特性を理解し、イメージした形に形成することができる。革細工の包括的作業分析を記録用紙に従って行うことができる。	完成までの手順と仕上げの方法を予習する。(30分) 作業を通じて得た楽しさや感情を言語化する。(30分)
6	作業学実習⑤ 革細工(包括的作業分析)	革細工作業における包括的作業分析レポートを完成できる。	包括的作業分析の記載方法を予習する。(30分) 分析結果をレポート形式でまとめる。(30分)
7	作業学実習⑤ ちぎり絵	ちぎり絵演習を通して作業をする楽しさ、難しさを体感する。道具、材料を適切に扱うことができる。イメージしたデザインに仕上げることができる。	ちぎり絵の特性と必要な材料を予習する。(30分) 手指の巧緻動作や配色等の効果を復習する。(30分)
8	作業学実習⑥ ちぎり絵	ちぎり絵演習を通して作業をする楽しさ、難しさを体感する。道具、材料を適切に扱うことができる。イメージしたデザインに仕上げることができる。	デザイン構成と作業の進め方を予習する。(30分) 完成した作品の自己評価と改善点を振り返る。(30分)
9	作業学実習⑦ 木工 (設計)	木工演習を通して作業をする楽しさ、難しさを体感する。道具、材料を適切に扱うことができる。提供された材料で作ることのできる作品を考え、木取り図を書くことができる。	木工道具の種類と木取り図の書き方を予習する。(30分) 設計における寸法計算と工程を復習する。(30分)
10	作業学実習⑧ 木工 (裁断)(組み立て)	木取り図に従い、木材を裁断することができる。裁断した木材を組み立てることができる。	のこぎり等の裁断道具の安全な扱いを予習する。(30分) 木材裁断時の力加減や身体の使い方を復習する。(30分)
11	作業学実習⑨ 木工 (組み立て、塗装)	裁断した木材を組み立てることができる。裁断した木材を組み立て、塗装を行い仕上げることができる。	組み立ての手順と塗装の基礎知識を予習する。(30分) 組み立て精度と仕上がりへの影響を復習する。(30分)
12	作業学実習⑪ アロマテラピー総論	アロマテラピーによる自律神経系への作用機序、精油の取り扱いにおける注意点、禁忌事項などを学び説明することが出来る。	精油の効能と自律神経系への作用を予習する。(30分) 禁忌事項と安全な取り扱い方法を復習する。(30分)
13	作業学実習⑫ アロマクラフト	アロマクラフトを通じて、精油などの道具や材料を適切に扱うことができる。	アロマを用いた手工芸の工程を予習する。(30分) 嗅覚刺激が心身に与える治療的意義を復習する。(30分)
14	作業学実習⑬ クラフトテープ	クラフトテープを切り分け、材料を揃えることができる。テープを編み、ペン立てを作成する中で、作業の楽しさや難しさを体感することができる。	クラフトテープの特性と編み方を予習する。(30分) 編み込み作業に必要な集中力と手指動作を復習する。(30分)
15	作業学実習⑭ クラフトテープ	クラフトテープを通じて、作業の楽しさや難しさを体感することができる。	作品の最終仕上げと装飾について予習する。(30分) 完成した作品の自己評価と改善点を振り返る。(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上 優(3):80～89点 良(2):70～79点 可(1):60～69点 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート	○			20	
授業態度			○	評価なし	
発表・作品		○		80	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員			実務経験紹介	作業療法士として9年勤務し、作業活動を提供した	

科目名	作業療法評価学総論					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	501教室、レクリエーション室	
授業概要	作業療法を実施する際、まずは患者の心身の状態を把握することから始まる。その状態に合わせた治療を実施するため、「評価」をできることは作業療法士として基礎となる。本科目では、評価の目的や意義、方法、手順といった、基礎知識の習得を目指す。									
一般目標	作業療法評価学を学ぶ上で基礎となる知識を習得する。									
テキスト 参考書等	標準作業療法学 作業療法評価学 第3版(医学書院) 参考書)PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版(金原出版株式会社) 参考書)PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 第2版(金原出版株式会社)									
到達目標										
知識(認知領域) ・作業療法評価の目的と意義、評価過程と評価項目を説明できる。 ・記録・報告・効果判定について説明できる。 ・面接、観察、意識評価、バイタルサイン、各身体機能検査の目的について説明できる。										
技術(精神運動領域) 身体機能障害、精神障害に対する作業療法評価技術について、基礎的な技術を学生同士で実施できる。										
態度(情意領域) 授業に参加できる。課題に対して真摯に取り組むことができる。居眠り、私語をしない。										
回数	授業内容		授業目標				事前学習(上段)・事後学習(下段)			
1	講義オリエンテーション, 評価学の基礎		・作業療法評価の目的・意義を説明できる。				作業療法評価学P.2～8を読む(30分) 授業資料の確認をする(30分)			
2	評価学の基礎		作業療法と評価:情報収集段階, 評価の目的, 手順, 手段, 留意点、評価のまとめと問題点, 利点の抽出, 目標設定, プログラム立案				作業療法評価学P.10～20を読む(30分) 授業資料の確認をする(30分)			
3	再評価と作業療法の効果判定、記録・報告の意義と特徴		・評価実施上、対象者へ配慮すべきことを列挙することができる。・評価結果をデータで残すことの重要性を述べることができる。・問題点と利点の違いをICFと関連づけて説明できる。・OTの効果判定について、具体的方法について列記できる。・統合と解釈についてICFと関連づけて説明できる。・記録・報告の目的・意義を言える。				作業療法評価学P.22～25を読む(30分) 授業資料の確認をする(30分)			
4	領域共通の評価法(面接法)		・面接の目的、得られる情報を説明できる。				作業療法評価学P.28～33を読む(30分) 授業資料の確認をする(30分)			
5	領域共通の評価法(観察法)		・観察の目的、得られる情報を説明できる。				作業療法評価学P.34～38を読む(30分) 授業資料の確認をする(30分)			
6	領域共通の評価法(関節可動域測定)		関節可動域測定に関する基礎知識を説明することができる。				作業療法評価学P.69～P77を読む(30分) 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。(30分)			
7	領域共通の評価法(筋力検査)		筋力検査に関する基礎知識を説明することができる。				作業療法評価学P.93～P99を読む(30分) 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。(30分)			
8	領域共通の評価法(感覚検査)		感覚検査に関する基礎知識を説明することができる。				作業療法評価学P.111～P122を読む(30分) 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。(30分)			
9	領域共通の評価法(意識の評価・バイタルサイン・臨床検査値の読み方)		意識、バイタルサイン(血圧・脈拍)の基礎知識を説明することができる。				作業療法評価学P.50～56を読む(30分) 授業資料を読み返しまとめる(30分)			
10	領域共通の評価法(反射検査)		反射検査に関する基礎知識を説明することができる。				作業療法評価学P.133～140を読む(30分) 授業資料を読み返しまとめる(30分)			
11	領域共通の評価法(協調性検査)		協調性検査に関する基礎知識を説明することができる。				作業療法評価学P.154～161を読む(30分) 授業資料を読み返しまとめる(30分)			
12	領域共通の評価法(脳神経検査)		脳神経検査に関する基礎知識を説明することができる。				作業療法評価学P.162～168を読む(30分) 授業資料を読み返しまとめる(30分)			
13	領域共通の評価法(筋緊張検査)		筋緊張検査に関する基礎知識を説明することができる。				筋緊張について教科書を読む(30分) 評価の採点基準を覚える			
14	領域共通の評価法(形態測定)		形態測定に関する基礎知識を説明することができる。				形態計測の種類について教科書を読む(30分) 測定部位を覚える(30分)			
15	領域共通の評価法(姿勢反射検査)		姿勢反射検査に関する基礎知識を説明することができる。				姿勢反射について教科書を読む(30分) 体験した内容の復習をする(30分)			
成績評価方法										
	知識(認知領域)		技術(精神運動領域)		態度(情意領域)		評価割合	成績評価基準		
定期試験	○						100	秀(4):90点以上		
小テスト							評価なし	優(3):80～89点		
宿題授業外レポート							評価なし	良(2):70～79点		
授業態度							評価なし	可(1):60～69点		
発表・作品							評価なし	不可(0):60点未満 未修得		
演習							評価なし			
出席					○		欠格条件	()内はGPA点数		
担当教員					実務経験紹介		病院での臨床勤務で多くの患者に評価の実施経験を有す			

科目名	生活機能学					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 1年	学期	後期	教員実務経験		有	使用教室	501教室・木工金属陶工室
授業概要	国際生活機能分類とリハビリテーションの関連を理解する。手段的日常生活動作(調理、裁縫、レク等)を通して、OTとして活動をどのように捉えるかの視点を学ぶ。									
一般目標	1.国際生活機能分類の各構成要素と相互関係を学び、生活機能の分類方法を修得する。 2.各構成要素の具体的内容を学び、その分類方法を修得する。 3.活動における最大能力(出来る活動)と実行状況(している活動)について理解し、その評価法を修得する。 4.目標指向型リハビリテーションについて学び、その思考過程を身につける。 5.活動を自ら体験・分析することにより、作業分析におけるOTの視点、思考過程を理解する。 6.レクリエーションを通して、ICFにおける参加(社会的活動)の意義を理解することが出来る。 7.認知症サポーターの資格取得を通して、認知症がある方に対する基本的な知識、対応方法を理解することが出来る。									
テキスト 参考書等	・ICF 国際生活機能分類 -国際障害分類改訂版- (中央法規) ・ICFの理解と活用 (萌文社)									

到達目標			
知識(認知領域) ・ICFの構成要素とその関連性を理解し説明することが出来る。 ・作業分析におけるOTの視点、思考過程を理解し説明することが出来る。			
技術(精神運動領域) ・事例を通してICFシートをまとめる事が出来る。 ・作業活動をOTの視点、思考過程で観察することが出来る。			
態度(情意領域) ・居眠りや私語なく、授業に集中して参加できる。 ・グループワークにおいて積極的に意見を述べ、役割を果たすことが出来る。			
回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	国際生活機能分類(ICF)とは	国際生活機能分類の概要を学び理解し説明出来る。 過去から現在までの、健康、疾病、障害、生活の捉え方の変遷を学び理解し説明出来る。	教科書(ICF国際生活機能分類)P3～8を読む(30分) 配布プリントを見直す(30分)
2	国際生活機能分類の構成要素と関係性について	ICFの構成要素とそれぞれの関係性について理解し説明出来る。	教科書P9～10を読む(30分) 配布プリントを見直す(30分)
3	心身機能・身体構造および障害について	構成要素の一つである心身機能・身体構造および、これらの否定的側面(機能障害・構造障害)について理解し説明出来る。	教科書P11～12を読む(30分) 配布プリントを見直す(30分)
4	活動・参加および活動制限・参加制約について	構成要素の一つである活動・参加および、これらの否定的側面(活動制限・参加成約)について理解し説明出来る。	教科書P13～15を読む(30分) 配布プリントを見直す(30分)
5	背景因子(環境因子・個人因子)および促進・阻害因子について	生活機能の背景因子である環境因子・個人因子について理解し説明出来る。	教科書P15～16を読む(30分) 配布プリントを見直す(30分)
6	出来る活動・している活動・する活動について	活動は実行能力(出来る活動)と遂行状況(している活動)に大別出来る。これらの違いを理解するとともに、主たる評価方法について理解し説明出来る。	教科書(ICFの理解と活用)P33を読む(30分) 配布プリントを見直す(30分)
7	国際生活機能分類とリハビリテーション	リハビリテーションにおけるICFの関係性、活用方法を理解し、説明出来る。	教科書(ICFの理解と活用)P38～45を読む(30分) 配布プリントを見直す(30分)
8	ICFまとめ(事例を通して)	事例を通して、ICFシートをまとめる事が出来る。	1～7回の配布プリントを確認する(40分) 配布プリントを見直す(20分)
9	手段的日常生活活動の評価と分析	調理活動を通して、作業分析に必要な思考過程を理解する事が出来る。	作業分析表の各項目を確認する(30分) 調理動作の撮影動画を確認する(30分)
10	手段的日常生活活動の評価と分析	裁縫活動を通して、作業分析に必要な思考過程を理解する事が出来る。	作業分析表の各項目を確認する(30分) 裁縫動作の撮影動画を確認する(30分)
11	手段的日常生活活動の評価と分析	作業分析の結果をまとめレポート提出することが出来る。	作業動画を確認する(30分) 配布プリントを確認する(30分)
12	レクリエーション体験	レクリエーションを通して、ICFにおける参加(社会的活動)の意義を理解することが出来る。	レクリエーション種目について調べておく(30分) 配布プリントを見直す(30分)
13	レクリエーション体験	レクリエーションを通して、ICFにおける参加(社会的活動)の意義を理解することが出来る。	グループワークの内容をグループで確認する(30分) 配布プリントを見直す(30分)
14	レクリエーション体験	レクリエーションを通して、ICFにおける参加(社会的活動)の意義を理解することが出来る。	グループワークの内容をグループで確認する(30分) 配布プリントを見直す(30分)
15	認知症サポーター養成講座(石丸)	認知症サポーターの資格取得を通して、認知症がある方に対する基本的な知識、対応方法を理解することが出来る。	認知症の教科書を読む(30分) 配布プリントを確認する(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート			○	評価なし	良(2):70～79点
授業態度			○	評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		作業療法士として13年間精神科病院で勤務。その間ICFを用い、患者の退院後の生活や生きがいを見据えた指導・訓練を実施。		

科目名	日常生活活動					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 1年	学期	後期	教員実務経験		有	使用教室	501教室・ADL室・レクリエーション室
授業概要	リハビリテーション医学や作業療法によって日常生活活動(以下、ADL)は重要な概念の1つである。そのADLについて概念を理解する。また、ADLに含まれる諸動作を例に取り上げて具体的な動作を観察、分析し、諸動作の構成要素を学習する。									
一般目標	ADLの概念と範囲を理解し、特に範囲については項目をすべて列挙できるようになる。ADLの代表的な評価方法を知り、それを扱うことができるようになる。									
テキスト・参考書等	15レクチャーシリーズ ADL・実習(中山書店)									

到達目標										
知識(認知領域) ・ADLの定義を説明できる。 ・ADLの範囲を説明できる。 ・ADLの代表的な評価方法を列挙できる。										
技術(精神運動領域) ・特になし										
態度(情意領域) ・提出物を忘れることなく提出できる ・居眠り、私語なく授業に取り組むことができる。意欲を持って授業に望むことが出来る。										

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	講義オリエンテーション ADL総論	講義の概要を理解できる。 ADL、IADL、APDLについて説明できる。	参考書でADL、IADL、APDLの定義を調べ、それぞれの違いをノートに書き出す(30分)。 自分の1日の行動を振り返り、どの動作がADLで、どれがIADLに該当するか分類表を作成する(30分)。
2	BIについて	Barthel Indexの概要を理解でき、模擬症例を採点できる。	BI 10項目を暗記し、満点が100点であることを確認する(30分)。 模擬症例を解き、なぜその点数になったのか「自立・部分介助・全介助」の基準に沿って理由を書く(30分)。
3	FIMについて	Functional Independence Measureの概要を理解できる。 FIMの運動項目についての採点方法を理解できる。	FIMの7段階評価(7点～1点)の基準(介助量など)を予習する(30分)。 5点(監視)と4点(最小介助)の境界線を自分の言葉で整理する(30分)。
4	ADL評価表	BI、FIM以外のADL評価法について概説できる。 FIMの運動項目についてグループで採点できる。	参考書でBI、FIM以外の評価法(Katz Index等)の名前をチェックする(30分)。 FIMの運動項目の評価を復習する(30分)。
5	ADL評価について	ADL評価における「質的評価」と「量的評価」について、その意味と目的を理解できる。 ADL評価における環境面の注意点について理解できる。 「しているADL」と「できるADL」の違いを理解できる。	「できるADL」と「しているADL」の違いをネットや本で調べる(30分)。 なぜ「できる」と「している」に差が出るのか、心理面や環境面から理由を3つ考察する(30分)。
6	基本動作とは	基本動作について説明できる。 それぞれの基本動作を動作分析でき、文字で表すことができる。	起き上がり動作の動画を1本見て、正常な動きの流れを確認する(30分)。 寝返り～起き上がりの工程を箇条書きにする(30分)。
7	セルフケアの動作分析・姿勢	セルフケアの動作分析ができ、文字で表すことができる。 姿勢について、姿勢変換方法について説明できる。	顔を洗う、髪を整える動作に必要な関節(肩や肘など)の動きを予想する(30分)。 姿勢変換の方法について、頭から、足からそれぞれを箇条書きにする(30分)。
8	起居移動	起居動作の動作を工程で分けて列挙することができ、学生同士で動作指導を行うことができる。	椅子から立ち上がる際、足がどこに位置すると立ち上がりやすいか動作しながら考える(30分)。 動作指導を振り返り、声掛けした内容を声に出しながら自分自身で動作を行う(30分)。
9	歩行動作と歩行補助具	歩行動作の基本事項を理解でき、説明できる。また、歩行補助具の違いを知り、扱うことができる。	T字杖、4点杖、歩行器のそれぞれの形と特徴を参考書で確認する(30分)。 歩行補助具の分類と名前を言えるようにする(30分)。
10	自助具とてこについて	自助具とそでこの種類について説明できる。また各自助具が対応できる疾患や症状を知ることができる。 自助具について調べ学習を行い、理解を深めることができる。	物理の「てこの原理(第1～第3)」を復習し、身近な道具で例える(30分)。 自分が担当する自助具が、どの疾患のどんな不自由を補うものかノートにまとめる(30分)。
11	自助具とてこについて	自助具について調べたことを発表できる。	他者に説明するための発表資料(要点メモ)を整理する(30分)。 クラスメイトが発表した自助具の中から、重要と思ったものを3つ選び特徴を記す(30分)。
12	移乗動作と電動ベッドの操作方法について	移乗動作の動作分析ができ、学生同士で動作指導を行うことができる。また、それに伴い電動ベッドの操作方法も習得できる。	車椅子からベッドへの移乗の動画を見る(30分)。 電動ベッドの高さ調節も含めて、車いすからの移乗の工程をノートに記録する(30分)。
13	床からの立ち上がり、起立、更衣動作	片麻痺患者を想定し、床からの立ち上がり、起立、更衣動作の動作を自分で行うことができる。	片麻痺の更衣の原則「健患患着(けんだつかんちゃく)」の意味を調べる(30分)。 片麻痺患者が床から立ち上がる際の工程を、介助者の視点で列挙する(30分)。
14	車椅子操の走行練習とまとめ	車椅子の操作練習を行い、注意点を列挙できる。 授業のまとめ(疑問点は調べ学習や質疑応答で解決する)	車椅子の各部名称(フットサポート、キャスター等)を暗記する(30分)。 テスト対策プリントでわからない箇所を自分で調べる(30分)。
15	トイレ動作、入浴動作、食事動作	片麻痺を想定してトイレ、入浴、食事動作練習を行い、動作の工程を列挙できる。	各動作(トイレ等)を工程別に細かく分解して書き出しておく(30分)。 片麻痺を想定した実習結果を振り返り、ノートに手順を書きだす(30分)。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			85	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート			○	15	良(2):70～79点
授業態度			○	評価なし	可(1):60～69点
発表・作品			○	評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習			○	評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		作業療法士として、生活期領域で9年勤務		

科目名	作業療法セミナー					単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 1年	学期	前期・後期	教員実務経験	有	使用教室	501教室・パソコン室	
授業概要	本セミナーでは、過去に出題された国試問題をベースに作成された問題や解説文章などを活用して、作業療法士の基礎となる解剖学・生理学・運動学、その他学問への理解を深める機会とする。Moodleを使用したE-Learning、ヒントレ等の国試参考書を使用した調べ学習等を行います。また、作業療法士の理解を深める動画制作を行う。授業は前期8コマ、後期7コマとする。また、各期末にCBTを行う。CBTは事前に提示した学修範囲の正答率が90%以上を合格とし、合格するまで複数回実施する。									
一般目標	基礎医学(解剖学・生理学・運動学・その他)の全範囲を履修できる。 動画制作を通して作業療法への理解を深める。									
テキスト 参考書等	PT・OT基礎固めヒント式トレーニング 基礎医学編(南江堂)									

到達目標			
知識(認知領域) ・基礎医学(解剖学、生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を正しく解くことができる。また、問題によっては解説できる。 ・作業療法士のことを説明できる。			
技術(精神運動領域) ・なし			
態度(情意領域) ・毎回の授業に参加できる。 ・グループワークでは主体的に参加し、協働して課題を完成させることができる。			
回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	基礎医学の学習と習熟度確認(1)	基礎医学(主に解剖学、生理学)の国試過去問を解答しCBTを100%で完了できる。	テキストの解剖学や生理学の範囲を予習する(30分)。 実施した国試過去問の解き直しと復習を行う(30分)。
2	基礎医学の学習と習熟度確認(2)	基礎医学(主に解剖学、生理学)の国試過去問を解答しCBTを100%で完了できる。	ヒントレ等の参考書で基礎医学の予習を行う(30分)。 CBTに向けた弱点箇所の再確認と復習をする(30分)。
3	基礎医学の学習と習熟度確認(3) 動画制作(1)	基礎医学(主に解剖学、生理学)の国試過去問を解答しCBTを100%で完了できる。また、作業療法士の仕事内容を調査し、動画として報告できる。	解剖学等の基礎知識をテキストで予習する(30分)。 作業療法士の仕事内容について調査し復習する(30分)。
4	基礎医学の学習と習熟度確認(4) 動画制作(2)	基礎医学(主に解剖学、生理学)の国試過去問を解答しCBTを100%で完了できる。また、作業療法士の仕事内容を調査し、動画として報告できる。	国家試験過去問の該当範囲を予習しておく(30分)。 動画制作の素材確認と学習内容を復習する(30分)。
5	基礎医学の学習と習熟度確認(5) 動画制作(3)	基礎医学(主に解剖学、生理学)の国試過去問を解答しCBTを100%で完了できる。また、作業療法士の仕事内容を調査し、動画として報告できる。	生理学や運動学の基礎事項を予習する(30分)。 制作した動画の構成と学習内容を振り返る(30分)。
6	基礎医学の学習と習熟度確認(6) 動画制作(4)	基礎医学(主に解剖学、生理学)の国試過去問を解答しCBTを100%で完了できる。また、作業療法士の仕事内容を調査し、動画として報告できる。	参考書を用いて基礎医学の予習を継続する(30分)。 小テストと動画制作の成果を振り返り復習する(30分)。
7	基礎医学の学習と習熟度確認(7)	基礎医学(主に解剖学、生理学)の国試過去問を解答しCBTを100%で完了できる。	基礎医学全般のテキスト範囲を予習する(30分)。 正答率向上のため間違えた問題を復習する(30分)。
8	基礎医学の学習と習熟度確認(8)	基礎医学(主に解剖学、生理学)の国試過去問を解答しCBTを100%で完了できる。	解剖学や運動学の重要項目を予習する(30分)。 前期の学習範囲を整理して総復習を行う(30分)。
9	基礎医学の学習と習熟度確認(9)	基礎医学(主に解剖学、生理学)の国試過去問を解答しCBTを100%で完了できる。	後期に向けた基礎医学の予習を再開する(30分)。 CBT合格に向けた知識の定着を確認する(30分)。
10	基礎医学の学習と習熟度確認(10)	基礎医学(主に解剖学、生理学)の国試過去問を解答しCBTを100%で完了できる。	テキストの生理学等の基礎範囲を予習する(30分)。 授業で扱った過去問の解説を読み復習する(30分)。
11	基礎医学の学習と習熟度確認(11)	基礎医学(主に解剖学、生理学)の国試過去問を解答しCBTを100%で完了できる。	国家試験の頻出項目を参考書で予習する(30分)。 理解が不十分な用語や概念を重点的に復習する(30分)。
12	基礎医学の学習と習熟度確認(12)	基礎医学(主に解剖学、生理学)の国試過去問を解答しCBTを100%で完了できる。	解剖学や運動学の図表を確認し予習する(30分)。 小テストへの備えとして習熟度を復習する(30分)。
13	基礎医学の学習と習熟度確認(13)	基礎医学(主に解剖学、生理学)の国試過去問を解答しCBTを100%で完了できる。	基礎医学の未習得範囲をテキストで予習する(30分)。 解答解説を読み直し思考過程を復習する(30分)。
14	基礎医学の学習と習熟度確認(14)	基礎医学(主に解剖学、生理学)の国試過去問を解答しCBTを100%で完了できる。	基礎医学の全範囲を俯瞰して予習する(30分)。 知識の漏れがないか全体を網羅的に復習する(30分)。
15	基礎医学の学習と習熟度確認(15)	基礎医学(主に解剖学、生理学)の国試過去問を解答しCBTを100%で完了できる。	定期試験に向けた重要事項を予習する(30分)。 全範囲の総復習を行い定期試験に備える(30分)。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員			実務経験紹介	作業療法士養成校での教員経験は20年以上を有し、国家試験対策に従事してきた。	